

月寸
稲野 龍

自と天つ
カコ美玖人へや
秀夫

月寸 月寸 命士 日
日寸 月寸 日寸 月寸
月寸 月寸 月寸 月寸
月寸 月寸 月寸 月寸
月寸 月寸 月寸 月寸
月寸 月寸 月寸 月寸

華系屯
⑤ KASUMI

月寸

絵
Yu Ryo

樸
かみ

逢
長谷川 幹平

水
稲野 龍

水

金童
長谷川 幹平

ももろ
みろろ ちん

傷
みち

龍
小野 龍

闘
king

米軍
八巻 優花

新
michiko

風
坂本 地希

淡
鈴木 裕介

月券
石川 耀臣

月券

Ai News Paper

Event & Program

エーアイニュースペーパー
2020年1月号 / vol.10
interviewer : 白戸 健
photographer : Sin Gim
Dtp : Yu-ryu-

もりのみやこのふれあいコンサート



12月6日、イズミティ 21 大ホールにて、仙台フィルハーモニー管弦楽団による、演奏を聴きに行きました。オープニングに馴染みのある映画音楽で心を鷲掴みされ、オーケストラによるクラシックの演奏に魅了されました。

クリスマス会



12月23日、Aiにてクリスマス会&勝利先生送別会を開きました。歌のソロで始まり、クイズ、ビンゴ、ボウリングなどのゲームで盛り上がりしました。勝利先生が前に聞いた「歳の差、立場関係なく、相手から学ぶことが大事」その

言葉がほっぷから始まり、Aiで実感できるようになったと話されました。最後に「ビリーブ」をみんなで歌い、先生を中心に記念写真を撮ったりと楽しいクリスマス会になりました。



「開発好明とアート・インクルージョンの表現者」開催



2020年1月6日(月)~2月1日(土) 11:00-17:00
(土曜日 19:00 まで) 日曜祝日休み
【特別企画】カフェトーク「アートでインクルージョン！」
2020年2月1日(土) 15:00-17:00
【会場】ばらんどーむ一番町 Ai GALLERY
【入場】無料

ららら文化祭 2020
令和2年1月26日(日)、太白文化センターは「楽しいこといっぱい」の1日になります。アートを通してのワークショップや展示など、そしてスタジオではダンスレッスン、ホールではクラシック・ポップスのコンサートも、楽しさいっぱいのイベントです。小さなお子さんから大人の方までどなたでも参加できます。ぜひ、ご来場ください!

1月26日(日) 太白文化センター
10時スタート

年末年始休業のお知らせ

2019年12月28日(土)~2020年1月5日(日)まで
Aiは事務局、ギャラリーともお休みになります。年末年始、体調にお気をつけて良いお年をお迎えください。

オモテの作品

毎年恒例の2019年の漢字は予想通り「令」になりましたが、Aiスタッフの皆さんにも思い思いに今年の漢字を書いていただきました。

言葉では語りつくせない無限大の可能性

Aiではお互いにフラットな関係を築けるよう、親しみを込めて職員をパートナー、利用者をスタッフと呼んでいます。今回は、遠藤信彦さんにお話を伺いました。

白戸: Aiでどんなお仕事をされていますか?

遠藤: 週2回、パートナーとして働いてます。おもにイベントなどの告知や、印刷物の制作をスタッフと一緒に作っています。

とくに、ニュースペーパーは月1回の定期発行なので記事の取材、原稿やレイアウトの準備などで忙しいこともありますが、人と関わることも多いので、コミュニケーション能力やPCのスキルアップも兼ねてスタッフと思考錯誤しながら楽しくやっております。

白戸: Aiに来る前は何かをされていたか?

遠藤: 現在もですが、広告デザインの仕事をしております。その経験を活かせれば良いと思っています。

白戸: 休日は何をしてお過ごししていますか? または何か楽しみはありますか?

遠藤: 日帰り温泉やスーパー銭湯によく行きます。

東北は各地に温泉がありますし、名産や名所を巡り、その土地の文化に触れるのも楽しみの一つですね。

白戸: Aiスタッフさんとどんなことをしていきたいですか?

遠藤: Aiに来てからまだ数ヶ月しかたっていませんが、クリエイティブやアートと言う言葉では語りつくせない何かが、生まれているような気がします。一人ひとりが持つ可能性は無限大なのだというのを突きつけられているような感覚があり、常に驚きの連続であります。

感性や生まれてくる発想は誰かに教わるものではないと思うので、きっかけ作りのひとつになっていければと思っています。



パートナー
遠藤 信彦さん

個性を活かした作品作りを目指して

アートな福祉事業所 Ai ファクトリーの特徴でもある多様なカリキュラム。今回はアートワークショップの時間を担当されている、松並京央子先生にインタビューしました。

白戸: カリキュラムの時間は何をしていますか?

松並: 粘土を使って、個人個人の個性的な作品を作っています。7色の粘土を練りあわせ、自分達の好きな色をだすこともできます。

白戸: その狙いはどういうところにあるんですか?

松並: 触れるだけで癒される粘土ですので皆さんの心のリフレッシュをしながら、皆さん1人1人の個性を引き出してあげた仕事としての作品を作れたらと思っています。

白戸: カリキュラムの時間の中であった印象的だったエピソードを教えてください。

松並: 私達が、考えもつかないほどの色の組み合わせ、又、想像性は驚きでした。

白戸: このカリキュラムで今後、どんな事を伝えていきたいですか?

松並: 今はまだ皆さんの個性をまとめる事はできていないのですが、社会進出のできる、皆さんでしかできない個性的な作品作りになれたらと思っています。



外部講師
松並 京央子先生